

2022年度 生命科学特論

修士2年

この授業を通して、自分の身体により興味を持つようになった。特にレポートを通して、自分が脂質異常症という生活習慣病になる恐れがあったこと、また予防のためにすべき事柄などが明らかになり、自分で行動に移すことが出来るようになった。この経験を活かして、今後は生活習慣病の予防、改善に努めたいと思う。

修士2年

授業を受ける前までは、免疫をはじめとする生命活動に関わる細かな内容まで理解できるか不安であった。しかし、用語の説明などのフォローアップがあり、理解を促すことができた。また、オンデマンドであったため繰り返し視聴することも学習の為には良かったと感じた。

授業を通しての感想として、生命の「仕組み」の緻密さに驚いたことが挙げられる。免疫機能ひとつ取っても、どうやってその機能を獲得したのだろうと感心するばかりであった。今後もそのような驚き・気づきを大切にしながら、研究活動や社会人としての生活に臨んでいきたい。

修士2年

本講義を受講させて頂き、生命科学というものは人類の進歩を改めて感じた。特に細胞の形成の部分や細胞が身体にどのような影響を与えているのかなど興味深い点がよくあった。

修士1年

自分の専攻が生物科学ではないから単純に日常生活に役に立ちそうな常識を学ぶために受講する事にした。講義が進めば進むほど内容と用語が難しくなってきたが大変だったが最後まで無事に終わることができたので嬉しく思っている。特に生命科学特論の講義を通じて生物について色々考えさせられたし、全般的な基礎知識を得られることができて良かったと思う。青カビから偶然にペニシリンという抗生物質を発見した例から見るとすでに世界中に存在している生物を通して新しい発見をする研究者になるのも面白い仕事ではないかと感じた。コロナ禍の時代に相応しい最後の補講のお陰で熱中症について注意しなくてはならない事項を家族と友達に教えられることができてとても役に立った。これからもこの講義から学んだ基礎知識を踏まえて生命科学に関わる新聞記事とかテレビニュースがもっと楽しめることを期待している。

修士1年

「生命科学特論」というコースで、系統的に生命、細胞とその構成、内分泌などについての知識を教えてもらった。復習して基礎知識を身につけるのに役立った。外国人留学生として、このコースが好きである。この講義の専門用語の解釈は私の研究室での zemi にも大いに役立ったと考える。

先生の教材はとても詳しくて、これは私にこの課程を復習するのが比較的容易になって、私はこの授業の形式がとても好きで、便利に学習時間を手配することができる。

私は EPOC を研究している。尿検査や、運動が体の中の物質に与える影響と酸化ストレスについても、「生命科学特論」は役に立ったと考える。

修士1年

全 15 回の講義を経て、特に重要であると感じたことは「自分自身で調べること」「初めから苦手意識を持たないこと」が挙げられます。「自身で調べること」については、専門用語が頻出する細胞や炎症関連の講義でしたが、やはり講義を一度受講したのみでは十分に理解ができず、自身で参考書を開くことも少なくありませんでした。自身で調べた用語などについては、その後の講義で再び聞かれることがあっても混乱することなく、スムーズに理解することができました。自己学習した内容について特に記憶に残っているのは抗原提示に関する勉強でした。「病気がみえる Vol16 免疫・膠原病・感染症」(MEDIC MEDIA 社)という書籍の抗原提示に関する説明が分かりやすかったのが印象に残っています。「初めから苦手意識を持たないこと」については、理学療法士養成校時代から用語が理解できず難しいと苦手意識のある領域でしたが、講義の中でもご紹介させていただいた書籍の中でもイラスト多く用いてわかりやすく解説されているものもあり、1 講義や 1 冊の本で理解ができない場合には、前述した書籍など、自身のレベルに合った参考書から学習を進める多角的な視点を持つことができたように思います。

修士1年

生命科学の講義を通して基礎的な知識から専門的な知識まで幅広く学ぶことができました。専門的な知識になると少し難しく感じることもありましたが、分からない用語やより詳しく知りたいと思った分野についてはインターネットを活用して学習することができました。しかし、復習する時間がもう少しあれば良かったと感じたので、授業のない夏季休業の期間に復習できていないところを勉強したいと思います。生命科学の分野は自分自身の身体や生活にも役立つことが多くあるので、これからも時事問題等に目を向け、学びを深めていきたいです。

修士1年

今期、生命科学特論の講義を受けて臨臨床的に見ていたスポーツ障害の解像度が上がった。前半の方は、生命科学は奥が深く神秘的に感じる抽象的な感想を持つに留まってしまった。しかし、後半そしてレポートを書くにあたっては、生体内で起こる基礎的なメカニズムを理解することで根拠を持って臨床で活用できる治療法を考案でき、自身の研究に活かせることが可能になったように思う。とはいえ、講義全体を通して、疑問に思ったことを調べたり今までに得ていた生物や化学の知識と照らし合わせたりすることで、知識を深めることができた。自主学習は論文や疾病に関する HP を読んで行っていたが、体系的に知識をつけるためにも 1 冊本を読むことも良かったのではないかと振り返る。今後はここで得た知識を活かして、根拠に基づいた新たな腰痛、引いては仙腸関節障害に対する運動療法の研究を深めていきたい。

修士1年

本講義を通して、生命科学の基礎分野をしっかりと学ぶことができました。特に抗体の分野に関しては、恥ずかしながら初めて原理を理解することができました。生命科学の分野は非常に複雑で学習が困難ではありますが、非常に興味深いものです。しっかりと復習をしてこれからの研究に活かしていきたいと思います。

修士1年

生物学は大学までに学んでいた科目の中でもかなり苦手な分野でもあり、講義でも理解に苦しむことが多くかなり難しかった。ただ、アスリートのパフォーマンス向上を主な仕事とする私にとって、生物学と仕事として学んでいる内容がマッチする部分もあり、生物学がすべての基礎であるということを再認識してからはかなり根気強く勉強することができたと思われる。

自主学習は、主に免疫系について行ったがあまり生物学の基礎とは離れた部分だった。講義で扱った内容をトレーナーとして大学生の頃に学んだ基礎の部分とリンクさせて復習するように心がけた。その成果か、なぜそのような処置を行うのかなど根拠を持って現場で活動できるようになり、講義を受講した成果が出たのではないかと思う。

修士1年

内容は専門的についていくのに必死でしたが、参考書などを使いながら理解を深めていきました。私自身がトレーナーとして活動していることもあり、NSCAの参考書を中心に使いました。運動におけるホルモンの応答から、免疫まで幅広く学ぶことができ、多くの知識がついたと感じています。短い間でしたが、ありがとうございました。

修士1年

本講義を通して、身体を構成する細胞や器官といった高校生物で学ぶ生理学の基礎内容から、体内で生じる代謝や恒常性の内容に続いていき、免疫応答や免疫不全症などの医学関連の内容といったように、段階を踏んで学んでいくことができた。そのため、高校や大学の授業で学んだ内容と、本講義で新たに学んだ内容との結びづけがスムーズに行えたように感じられた。期間中に取り組んだ自主学習としては、講義動画や講義資料の見直しが主であり、必要に応じて大学時代に使用していた生理学の参考書の参照を行っていた。ただ、学習分野に関しての先行研究論文を読むといったことは行えていなかったため、今後はそれについてより積極的に取り組んでいきたいと思っている。自身の研究領域は生理学とは多少離れているが、機会があれば本講義で学んだことを自身の研究に活かしていきたいと考えている。

修士1年

神経生理学や運動生理学など、理学療法に欠かせない知識でありながら、苦手に思い避けてきた知識を再復習する機会になった。また、痛みの概念や捉え方、治療介入については臨床活動の中で日々疑問に思い、難渋していた部分であり、本レポート作成が患者理解の一助となると良いと思う。日々の講義では、当初教科書が手元になく、苦勞したこともあったが、教材を使用したり、学部で使

用していた教科書を使用したりしたことで、当時理解していなかった部分も理解が深まったように思う。今後も臨床や研究での疑問をすぐに調べるなど、自主学習のレベルを高めていけたら良いと思う。

修士1年

高校生ぶりに生命科学について深く学ぶことができてよかったです。実は高校生の時は、生命科学はあまり好きではなかったのですが、改めて学び直すと面白かったです。気づいたことは、動物実験が多く行われているということです。今までは、意識もしたことがなかったけれど私達が健康で暮らしていくためのクスリなどを開発する際に多くの動物が犠牲になっていることがわかりました。まずは、動物に感謝しつつ、動物の犠牲を減らしていく方法を考える必要があると思います。自己学習の反省は、講義で習ったことだけを復習し、自分自身でさらに調べることをしなかったことです。今後は、講義で習ったことを復習するだけでなく、さらに自分で学びを深めていきたいです。

修士1年

今回の講義を通じて、生命科学について免疫学などを中心に学習することができた。生命科学については高校生の時に生物の講義を取った時に学んだ知識があった。さらに早稲田大学スポーツ科学部時代にも学習した部分と重なる範囲もあった。振り返りと新たな学習を行うことができ、大変充実した講義であった。今回の講義で学んだ知識を活かし、今後の大学院スポーツ科学研究科における研究活動に活かしたい。英語の論文等も積極的に読んで、自身の知見を深めたいと感じた。他にも、研究の成果は有効に活用される必要があると実感した。特にスポーツの場合はスポーツ科学の研究と、ドーピングの関係性は深いと考えられる。ドーピング活動により、スポーツ科学の研究の資金の獲得に繋がった事例もあろうかと容易に推測することができる。私自身としては今後の研究活動において、研究成果を良い方向に有効活用できるよう努力したいと痛感した。

修士1年

当初は特に何も考えず、授業を履修しましたが、今考えると、個人的には議論や対面の授業の方がよかったように感じます。それによってなぜ、どんな考えでその研究やその分野に興味があり研究しているのかを先生とだけではなく、学生同士で深めることができたと考えます。そこで2年間費やすため、深く考えることも大切ではあるが交流を持ち横の繋がりを作ればと考えました。以上が自身の至らない点だったと考えます。

一方よかった点としては、普段ビジネス領域の学生と関わることが多くなり、あまりこうした細部にまで至るような自然科学の知見や学びに触れることが少ないため、新鮮に感じました。同時に、身体の細部にまで触れる内容であったため、自身の考えるビジネスモデルがいかに安直であるかがわかりました。より人々のためになるような、革新的な何かアイデアを考えつけたら、国民へのサービスや健康水準が一新するのではないかと考えます。

修士1年

半年間、ありがとうございました。私自身、スポーツ教育が専攻で理系の学習ははじめてでした。履修の動機も専修免許状の科目に入っているからでした。

しかし、いざ授業を受けてみると、学習資料（レジュメ）が充実していたり、教科書がわかりやすかったり、図書館での自習教材を教えて頂けたり、難しい内容を極限までわかりやすくしていただいたのが印象的でした。

全く畑違いの領域を学ぶと新たな発見しかありません。生命科学の世界を知るのが楽しかったです。

この授業で学んだことを今後の人生でいかしていきます。ありがとうございました。

修士1年

半年間講義ありがとうございました。1度学んだ内容のつもりでしたが、忘れていた箇所が多く改めて勉強になりました。また、以前は新型コロナウイルスが流行る前だったので、今回講義でコロナという視点から免疫学を学べたことが新たな勉強になりました。講義の最初の感想文で、はたらく細胞を見ながら勉強したいと言っていましたが、意外と講義とだぶっている箇所が少なかったり、話数が多かったりと上手く活用できませんでした。しかし、先生の研究室のサイトを使ったり、高校生用の YouTube を見たりして免疫学を楽しみながら勉強できたと思います。免疫学は自分の体の健康に関わることなので、研究だけでなく、私生活でも役に立てていきたいです。

修士1年

講義の内容は専門的でしたが、生命や身体にとっては基礎的で重要な内容がほとんどで生活の中でも学びを活かせる情報が多くあった。自主学習については、一週間で各回の基礎知識の定着まで至れなかったこと、加えて、興味を持った講義内容をより深めた学習ができなかったことが反省点として挙げられる。また、自分の研究を進める時間と復習にかかる時間の確保が非常に重要であることを学んだ。

講義や本課題を通しては、新型コロナウイルス感染症への情報収集の重要性に気づいた。ニュースや人々の会話にあふれている情報の出どころは、科学的根拠に基づいて調査されてものであるかどうかの判断ができないため、自分で必要な情報を調べてウイルスと向き合っていく必要があると学んだ。

修士1年

高校時代私立文系を選択し、生物をそこまで深く学んでいなかった私にとっては正直難しい内容であった。その中で最後まで受講し、最終レポートを提出できるのは鈴木先生が初心者にもわかりやすいように講義を展開してくださったからだと思う。ありがとうございました。

修士1年

この分野の勉強は、高校の生物基礎と、学部時代の比較的易しい講義程度で知識が止まっていたため、ついて行くことに相当なエネルギーを要してしまいました。

ただ、私が受講してきた過去の講義中では例にないほど良心的・社交的なメールが定期的に先生から配信されていたため、この最終課題まで辿り着くことができました。非常に感謝しています。

上述したバスケット部の同期で、早稲田の大学院で生命医科学系に進学した友人がおり、実は彼女もこの授業を履修しています。「俺の理解が追いついてなくて大変なことになったら助けてくれ」という密約を交わしていた4月当初でしたが、なんとかここまで来られて正直かなりホッとしています。

春学期の間、お世話になりました。ありがとうございました。

修士1年

私は、元は理学部数学科で勉強をしていました。スポーツ科学は、部活で自主的に勉強をしていたので、自分の興味のある所ばかりを勉強をし、基礎が抜けていることを実感しました。中でも、運動生理学は単語が多いこともあって理解に苦しんでいたのも事実です。後半は、鈴木先生の教えから単語に執着することをやめて、復習を繰り返し、論理展開に着目して勉強を進めました。すると、単語の意味が分からなくても少しずつ調べたいことや、身体に起こる変化について理解をすることが出来るようになりました。これは、運動生理学に留まらず、たくさんの分野で応用が可能だと感じ、たくさんのことを吸収できる半学期であったと思います。

修士1年

この授業を取ったのはとても良かったと思う、何故かという、鈴木先生からたくさんの理解しやすい、専門性が高い本を紹介された。また授業も先生は詳細に重要な知識や方法を教えてくれました。それらの内容によって、自分の学業や、人生にも大きく役に立つことができると思います。

そして、なぜ私はこのレポートを取り込んだかというと、自身は不幸にCOVID-19感染症の症状があったことで、PCR検査を予約したいと思っていたが、なかなか予約し難いという状況がありました。ただ薬屋で抗原検査キットを販売されていることが分かり、抗原検査キットを買って自分を検査しました。そこから、抗原検査キットの原理について興味をもちました。ちょうど生命科学の授業はそこに関わっているので、勉強になった知識を基づいて感染症の検査に関わることを多く調べました。意外に、そこから分かったことをレポートにすると意味があると思ってレポートを決定しました。

修士1年

最後に、生命科学特論の授業について、少し感想やコメントを書きたいと思います。学部時代は基礎医学専攻のため、この授業で扱うトピックはすべて学部で学んでいたもので、聞き取りやすかったです。しかし、意外と見落とされがちなのが、ハイレベルになるにつれて、最初に習ったことを忘れがちになることです。そして、今回の生命科学特論の授業は、基本的な知識を復習するのに役立った。印象的だったのは、この授業の冒頭で、真核生物と原核生物の区別を教わったときです。こ

れは生物学の入門レベルの知識ともいえるが、どのように区別しているのか、私ははっきり覚えていなかった。だから、生命科学特論は私にとっては比較的簡単なものでしたが、それでも本当に感謝しています。

以上